# 新潟教育研究所

平成29年12月15日発行 第 36 号

公益財団法人 新潟教育会 新 潟 教 育 研 究 所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3 新潟教育会館 URL http://kyouikukai.jp

TEL·FAX 025-222-2971 E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

# 10年目の課題

教育の仕事は時代とともに変化し、求める教師の在り方も変わってきている。それは社会における知識の在り方に関わっていて、知識基盤社会と言われる今日にあって、学校の在り方すら問われるものとなっている。時代にあった教育が学校と教師に求められるのは当然といえる。

そうではあるが、教育の基本は子どもを育む ことにあり、それは羽包むとも言われるように、 親鳥が子どもを羽で包んで育てることに根源的 意味がある。

「早春、薄い光の差し込む国語準備室で、私はその手書きの証書を受けとった」に始まる文は一人の女子高校生の青春の一コマである。証書とは卒業証書のことである。屈指の進学校で、彼女は只一人の退学者になったという。「ちょっと出てこないか」との教師の電話に誘われ、出かけた先の国語準備室は「居場所を拒まず」彼女を受け入れた。それでも、結果として退学になったのである。「右の者は高等学校普通科の課程を修了したとは認められなかったが、困難な状況と闘い最善の努力をし続けた よって卒業生と等しいものとここに証す」と証書にはある。(三井住友信託銀行 私の遺産)

担任は他の教師たちと相談し、彼女に手書き の卒業証書を渡すことの了解をとった。かくし て唯一の担任の手書きの証書と相成ったのであ 新潟教育研究所 所長

## 生田孝至



る。手書きとは思えない見事な文字とともに、 担任が彫った朱の印「孔徳之容」の刻印がある。 老子の言葉で「すべてを受け入れる器」との意 味があるとか。かつて哲学者マルチン・ブーバ ーは「我と汝」の関係知を問うた。「我とそれ」 ではなく「我と汝」の関係の世界である。ここ に示された世界はまさにこれである。

子どもを育む知識とわざは、時代を超えて教師固有のものであろう。いま、大学院は教職大学院へと舵を切り、現場に役立つ知識と技術が求められている。教職大学院の教員は現職教育の経験者を一定の割合で構成され、その成否は彼らにかかっている。それは時代が求める新たな教師をこの大学院が育成するとの期待でもある。

大学院づくりに携わった者の一人として、これからの10年が極めて大事になると感じている。それは、ここから新たな教育実践に関わる理論の形成と実践の実際が発展されなければならないからである。羽包む知を育てる、わざと知識をどう理論化し実践化するか。研究所には数多くの諸先輩の経験と知恵がある。10年を経た研究所のミッションは、研究所の名にふさわしく、経験の知恵を大学とともに、理論化することであろう。経験知が集積する母港としての役割である。

# 新潟教育研究所が10周年を迎えました

~創立の心を, 今, 未来につなぐ~

平成19年度に発足した新潟教育研究所が創立10周年を迎えました。当研究所は生田孝至所長が所報第2 号で述べられたように、"Theory in practice"を目指しています。教育の理論と実践をつなぐことが課題

本研究所は3つの機能を発揮することが求められています。いわゆる「S・O・I |機能の推進です。

- 1 サポートセンターとしての機能
- S: 現職教職員の教師力・授業力向上の支援
- 2 オピニオンセンターとしての機能 **0**:調査研究に基づく教育にかかわる問題についての提言
- 3 インフォメーションセンターとしての機能 **I**:教育情報の提供や実践の紹介

以下、 $[S \cdot O \cdot I]$ 機能を具現化するために本研究所で取り組んできた事業内容を紹介します。

#### 1 教師力アップ講座

教師力アップ講座を平成21年度から開始し、29年度で9回を数えました。夏季休業中の土曜日または日 曜日に実施しています。講座を選択してどなたでも参加できます。約500名の延べ参加人数を数えていま す。現職のみなさんのニーズに合った内容を心がけています。

#### **第1回 平成21年度** 8月8日(土)

#### ※敬称略

1 大竹 肇

「TPRで楽しく英語を身に付ける」

2 パントマイムなかすペ! 「パントマイムを指導に生かす」

3 橋本 定男

「学級経営を10倍楽しむ教師の仕掛け」

#### 第2回 平成22年度 8月1日(日)

1 本間 徃徳

「算数教科書の使い方」

2 池端 愛子

「表現朗読の"魅力""楽しさ"|

3 石川 志郎

「充実した学級づくりの視点」

#### 第3回 平成23年度 7月31日(日)

- 1 室賀美津雄
- 2 高橋 幸雄
- 3 冨田 俊輔
- 「親子が一目置く教師」
- 「学級経営で子どもを育てる」

「非行少年を生まないために」

#### 第4回 平成24年度

#### 1 森 肇

- 2 森 嘉雄
- 3 大江 謙作

#### 7月28日(土)

「こうすれば書くようになる」

「表現力を高める指導」

「子どもの心と表現力」

#### 第5回 平成25年度

- 1 池津 久成
- 2 三遊亭慎楽
- 3 庭野 三省

#### 7月27日(日)

7月28日(日)

- 第6回 平成26年度 1 小林 和行
  - 2 長谷川 清
  - 3 杉中

### 「観察・実験を大切に」

「教室は寄席」

「日々の授業をどう変えるか」

「人づくり 物づくり」

「授業のユニバーサルデザイン化」

「子どもの体力づくり」



講座案内



パントマイム



算数の指導で

#### 第7回 平成27年度 7月26日(日)

1 佐藤 伸(サトシン) 「お話で寄り添う,心と心 ~お話から伝える,想像,表現,コミュニケーションの楽しさ~」

2 小林 恵子

「外国語活動にどう取り組むか」

第8回 平成28年度

7月24日(日)

1 鈴木 成実

「早期療育の必要性について(保育園と療育教室の連携及び小学校入 学時の連携)

2 岩﨑 保之

「アクティブ・ラーニングにどう取り組むか ~ "わくわくする" 学び を目指して~ |

第9回 平成29年度

7月30日(日)

1 片山 敏郎

「主体的・対話的で深い学びのためのタブレット端末活用|

2 吉澤 克彦

「主体的・対話的で深い学びのスタートラインにつく学級集団づくり

~エンカウンターの新しい展開~」

#### 2 教育アドバイザー派遣について

現場の教職員の研修を支援するために退職教員からなる教育アドバイザーを組織し、県内各学校、地域などに直接出掛け指導・支援する事業です。

近年,各教育委員会の指導主事体制が整ってきたせいか,派遣回数が減少気味ですが,週休日や夜間の派遣にも対応しています。



教育アドバイザー派遣

年 度	件数	登録人数
平成19年度	23	25
20	45	24
21	55	23
22	63	45
23	53	44
24	52	59
25	37	73
26	34	87
27	25	90
28	26	89
29	36	86

※29年度は11月現在

#### 3 教育調査報告書の発刊

教職員へのアンケート調査をもとに、データで語る提言を行っています。

第1回 平成21年2月 校内研修に関する教員の意識調査 - 校内研修の現状と課題 - (小学校編)

第2回 平成22年2月 校内研修に関する教員の意識調査-校内研修の現状と課題-(中学校編)

第3回 平成23年2月 「全国学力・学習状況調査」の取組に関する調査

- 調査を生かして学校を変える - (小学校編)

小中学校教員の勤務に関する意識及び実態調査

- 多忙化を解消し教育を充実させる -

(小学校・中学校)



第5回 平成26年3月

**第4回** 平成24年2月

新教育課程の実施状況調査

- ベネッセ教育開発センターの全国調査との比較から

見えてきたもの - (小学校編)

第6回 平成28年2月

校内研修に関する教員の意識調査-校内研修の現状と課題-(小学校・中学校)

**第7回** 平成30年2月

小中学校教員の勤務に関する意識及び実態調査

(予定)

- 多忙化を解消し教育を充実させる - (小学校・中学校)

#### 4 所報「新潟教育研究所」の発行

平成19年12月を創刊号とし、今号で36号となりました。現在は年間3号発行しています。巻頭言、伝えたい教師の心と技(35回)、研究員による執筆、事業内容報告(教育アドバイザー派遣など)で構成する4ページの誌面です。内容の充実、変化のある誌面を心がけています。

# 第9回教師力アップ講座

期日 平成29年7月30日(日)

会場 新潟教育会館

第1講座

10:00~11:45

「主体的・対話的で深い学びのための タブレット端末活用し

講師 日本デジタル教科書学会会長 新潟市立新潟小学校教諭

片山敏郎様

参加者全員にタブレットを配付し、実技、講義を 交えながらの講座でした。新学習指導要領のポイン トについての講義。教科の中で使えるアプリケーシ



ョンによる演習 が行われました。 とても興味深く 105分間があっ というまに経っ てしまいました。

#### <受講者の感想>

- これからの教育や時代に必要なICT活用につい て大変よく理解できた。様々なアプリを実際に体 験してみることでアプリの特徴や授業の中での活 用場面を意識することができた。また機会があっ たら参加したい。
- 初めてタブレットを使いました。とても分かり やすいなと思いました。学校でも取り入れられた らいいなと思いました。個人的にも購入してみた いです。

#### 第2講座

13:00~14:45

「主体的・対話的で深い学びのスタートラインにつく 学級集団づくり~エンカウターの新しい展開~

講師 上級カウンセラー

新潟大学教職大学院教授

#### 吉澤克彦様

たくさんの資料をもとに、ご自分の体験を交えた エンカウンターの最先端をゆく講座内容でした。夏 休み明けは児童生徒、教師にとって、とても大切な 時期で、時宜を得た内容でした。中学校の先生方が 多かったのも特徴的でした。



#### <受講者の感想>

- ◆ エンカウンターのやり方等で大変勉強になりま した。グループエンカウンターの有効性を改めて 感じました。「教科担任におけるグループエンカ ウンターの在り方」を研究したいと思いました。
- ◆ 明日から使えるようなエンカウンターを具体的 に教えていただきとても勉強になりました。改め て学級経営の大切さに気づく. とてもいい機会に なりました。

## 教育アドバイザーリストの活用を

8月27日に教育アドバイザー説明会を開きました。 平成29年度登録の新規教育アドバイザーは12人です。 総勢86人となりました。

を作成し、県内の市町村教育委員会と県内の小中学 校に送付しました。ご活用をお願いします。

# 教育調査について

7月下旬から8月中にアンケート調査を実施しま した。アンケートに回答くださった方々に厚く御礼 申し上げます。

新たに「平成29年度版教育アドバイザーリスト」 アンケート内容をまとめ、来春2月に第7回教育 調査報告書として発刊する予定です。現在鋭意編集 中です。